

2100年の江戸川区

共生社会ビジョン



ともに、生きる。
江戸川区

いまから2100年にかけて、
江戸川区の人口や、区のお金、職員数は大きく減り
3分の2程度になると予想されています。

このままなにもせず、
ただなりゆきにまかせていると、
2100年には
公園は手入れされないままで、
安心して遊ぶことができない場所に。
ごみの収集もスムーズにはできなくなり、
花火大会やおまつりも、いまと同じようには
できなくなってしまうかもしれません。

しかし、たとえ人口が減り、
区のお金がすくなくなったとしても、
ここに住むわたしたち一人ひとりの行動を積み重ねれば
それが大きな力となって、
未来を変えることだってできるのではないのでしょうか。

第1章 「いまから、わたしたちから。～2100年の江戸川区～」 3ページ

202X年、江戸川区に2人の赤ちゃんが誕生します。
この赤ちゃんは、これからどんな人生をおくるのでしょうか？
2つのものがたりが左ページと右ページで同時に始まります。

これは、
「協力しあうことなく2100年をむかえる江戸川区」と
「ともに力をあわせて2100年をむかえる江戸川区」の
2つの世界にそれぞれ生まれた、
とある赤ちゃんのものがたり。



第2章 みんなで考えた江戸川区の"これから" 17ページ

第3章 目指す未来「ともに生きるまち」 19ページ

「2100年の江戸川区」ができるまで 31ページ

協力しあうことなく 2100年をおかえる江戸川区

水とみどりに満ちた江戸川区に、
わたしは生まれた。



近所には友だちもすくなくて、
なかよくなっても、ひとり、またひとりとひっこしていった。
公園をひろびろと使えるのはうれしかったけれど、
木や花のお世話をする人はいなくて、
雑草がのびほうだい。
近所みんなも、見て見ぬふりをしているみたい。

ともに力をあわせて 2100年をおかえる江戸川区

水とみどりに満ちた江戸川区に、
わたしは生まれた。



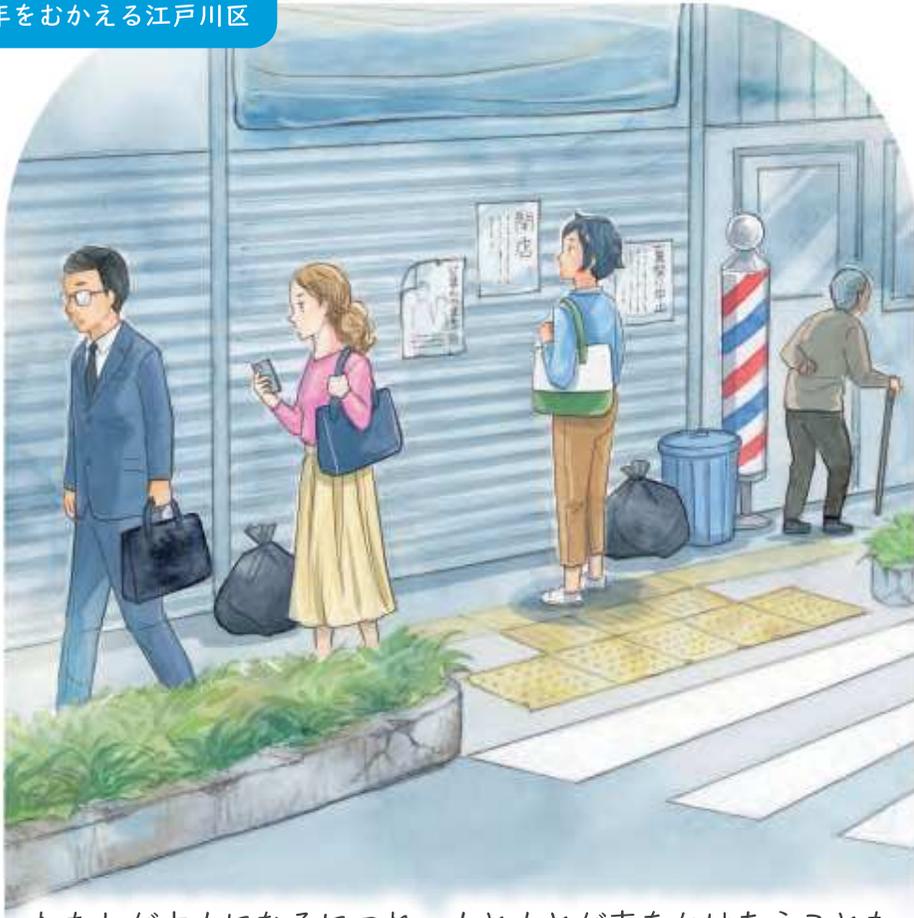
小さいころから、外で遊ぶのが大好きで、
お気に入り、いろいろな木や花が育てられている公園。
近所みんなの手入れしているから、
季節ごとにきれいな花が咲く。
なかよしの子も、ひとり、またひとりと増えていって、
自然の中で元気いっぱい遊んだ。



小学校でも、クラスメイトはだんだん減っていった。
体育館や校庭でのびのび動けるのはいいけれど、
使われない教室があったり、校舎もところどころ古びていた。
「人口もお金も減っているからしかたない」と大人たちは言う。
わたしたちもほんとうはどうにかしたいと思っていたのに、
けっきょくだれも、なにも言い出さなかった。
先生は「希望をもって明るい未来をつくろう」って話すけれど、
どこから、なにから始めればいいのか、
ぜんぜんわからなかった。



小学校でも、いろんな子と友だちになった。
一人ひとりの個性を大切に、こまったときは助けあう。
黒板や机を、長く、ていねいに使いつづけるために
どうすればいいか、みんなで意見を出しあったりもした。
「いまから、わたしたちから、始めなくちゃ」が
合言葉になった。



わたしが大人になるにつれ、人と人が声をかけあうことも、
だんだんと減っていった。
それがいいと言う人もいるけれど、
わたしはすこしさみしかった。
大好きだったおまつりも、参加者がすくなくて、
とうとう中止に。
商店街では、シャッターがおりたままのお店が増えていった。
「じまんのまち」と書かれた古いポスターを見かけたとき、
にぎやかだった昔を思い出して、ためいきがこぼれた。



大人になったわたしは、
みんなのサポートのおかげで、近くの商店街に
ずっと夢だったパン屋をオープンさせることができた。

商店街はにぎやかで、
空き店舗^{てんぽ}が出て、すぐに新しいお店がオープンし、
わたしの小さなお店にもたくさんのお客さんが来てくれた。

大好きなおまつりにもスタッフとして参加するようになった。
感謝と笑顔が人と人を結んで、
ここでの生活がどんどん好きになる。
「じまんのまち！」って大きな声でさげびたいくらい、
しあわせだ。

区の施設に人が集まっているところを見かけなくなった。
このまちに暮らしている人はいるけれど、
たがいに無関心みたいだ。
そう思ったあと、自分もそのひとりだと気づいて、
また、ためいきが出た。



いまの生活も悪いことばかりじゃないけれど、
毎日なんとなく暮らしてはいるけれど、どこか物足りない。
もっとだれかと話したいな。いっしょになにかやりたいな。
同じ気持ちの人はいないのかな。

月に一度、まちに住む人、まちで働く人が区の施設に集まって、
行政の人もいっしょに、いろんな意見や希望について話しあう。

「この提案を実現するには、こうしてみるのがいいんじゃないか」
「これは我が社も協力しますよ。まかせてください」
「わたしたちはこの部分をお手伝いしましょう」



このまちでは、大人も子どもも、
大きい会社も小さい会社も、みんなが主人公。
まちのこれからについてにぎやかに語りあっていると、
ひとりじゃないって思えて、やりたいことが増えてくるんだ。

年を重ねるにつれて、後悔も強くなっていた。
意見を口にしなかったこと。
自分から動こうとしなかったこと。
仕方ないやと思いながら、ただただ日々を過ごしたこと。
もしも時間を巻きもどせるなら……。
だけどいまさら気づいても、もう、おそいんだ……。



あるとき、ふと考えた。
もしもあのとき、動いていなかったら。
もしもあのとき、助けあうことがなかったら。
きっといまごろ活気のないまちで、
毎日なんとなく暮らしていたんじゃないかな。



そう思ったとき、
「もしも」の世界で生きる自分の姿が見えた。
後悔ばかりで前に進めずにいるわたしを、
わたしは助けたかった。
いままでいろんな人にささえもらったように。
だからわたしは、わたしに手をのばした。

わたしは、わたしに、語りかけた。
「いまから、わたしたちから、始めなくちゃ」

だけどそれは「なにもできない」ということじゃない。
どんな「いま」も、「未来」につながっているんだから。
できることを探して、動き出さなくちゃ。



だって、いつの時代にも課題はある。
答えがない問題だって、たくさんある。

ひとりじゃないよ。
いつだって、ともに生きるだれかがいる。
あなたは どうしたい？ どんな未来を思い描^{えが}く？
あなたの思いを聴^きかせて。

そうしてわたしたちは、ともに考え始めた。
自分たちにもできることがあると信じて。
さあ、つぎはあなたの番。
あなたは どうしたい？
どんな未来を思い描く？

2100年は、
今日生まれた赤ちゃんが
80才になるころ。
そう考えると、未来といまは、
まっすぐにつながっている
ことがわかります。

わたしたちが
どのような暮らしを選び、
日々をどのように生きれば、
明るい未来につないでいく
ことができるのか。

その答えは、
人と人がささえあい、
「ともに、生きる。」ことに
あるのではないのでしょうか。
今日から行動を起こすことで、
未来は変わっていく。
だから、ともに話しあい、
考えるところから
始めましょう。

いまを生きるみんなで考えた江戸川区の“これから”

みんなで考えた 江戸川区の "これから"

区の広報誌やホームページ、ワークショップやオンラインミーティングなど、さまざまな場を通じてみなさんからいただいた意見を紹介します。

災害時はみんなが被災者。

官公庁の人に頼りがちだけど、自分たちでなにができるのかみんなで考えて行動できるようになりたい。もっとみんなが同じ感覚でいられたらな

環境負荷が少なく、誰もが暮らしやすい交通環境や歩行環境が整備されるはず

地産地消を目指し、

江戸川区の個性を伸ばすまちづくりを盛んに！

生き物すべてが仲良く暮らすまち。

“思いやり”があり、“楽しく”暮らせる地域として有名にしたい！

SDGs17のゴールがすべて守れて、人々が楽しく住んでいる環境がいい！

クリーン＆グリーンな江戸川区

誰もが安心して
住みやすい
インクルーシブなまち

「日本一交流が多いまち」

赤ちゃんからお年寄りまで、みんなが仲良くなれるまちに！

緑豊かな住環境がステイタスに！

若者たちが将来を夢見ることのできる未来に！

これまで大切にしてきた町内会での信頼と絆をいつの時代も忘れずに守っていければ、80年先の地域活動も安心

「明るい未来」という甘い言葉でファンタジーを語っている場合ではない。2100年を生きる人々に「昔の人もがんばっていたな」と思ってもらえるよう、できることはすぐに取りかかるべき

スポーツ施設の増設や改築は、障害者の視点を大切に

ロボットと人が助け合うまち

「水辺のまち」は江戸川区のいいところ。

もっと整備を進めて、水遊びができる場所やグランピング施設をつくりレジャー的な魅力を広げたい

「時代は変わる」ではなく、みんなで「時代を変える」のだ！

地球環境に
負荷を与えない、
環境再生型都市へ！

技術向上や人口減少で道路の役割が変わっていく!?車の通行がなくなった道路は、歩行者にやさしい緑道や公園にして活用を

江戸川区は高い建物がなくて空が広い！この特徴を活かせば、災害対策や新交通手段が整う「天空のまち江戸川区」も夢じゃない!?

世代を超えた交流を進めて、持続可能な“まちづくり”を実現

風鈴などの伝統文化や歴史ある場所も大切に……。 “伝統”と “最先端”のいいとこどりしたまちに住みたい

\\ 目指す未来 //

「ともに生きるまち」

これからの江戸川区のことを真剣に考えて
みなさんが出してくれた、たくさんのアイデア。

どのアイデアにも、
「いまから、わたしたちから、始めなくちゃ」という
思いを感じることができます。

わたしたちが目指しているのは、
一人ひとりの個性を大切にしながら、
みんながずっと住みつづけたいと思える
「だれもが安心して自分らしく暮らせるまち」です。

そのためにいま、わたしたちが努力をしないと、
未来の人たちが
暮らしにくいまちになってしまうかもしれません。

中には、がまんしなければいけないこともあるでしょう。
手ばなさなければならぬものもあるかもしれません。

これまで区役所が行ってきた区民サービスの内容ややり方も、
区内にたくさんある施設の数や大きさも、
見直しが必要になります。



でも、これまで以上に人や地域、行政などが、
その結びつきを強いものにしながら暮らしていけば、
わたしたちが目指す「ともに生きるまち」はきっとかなうはず。

「昔の人たちも、がんばっていたんだね！」と
言ってもらえるよう、
みんなで「ともに生きるまち」をつくっていきましょう。

なにと「ともに」？ ①

人とともに生きる。

2100年、人とともに生きる未来はどうなっているのだろう？

きっと、「障害者」や「LGBTQ」みたいな人をカテゴリーわけする言葉はなくなっているはずです。

だって、子どもも大人も、性別がなんであっても、生まれた国や肌の色がちがっていても、みんな同じ“人間”なのだから。

みんなが認めあい、ささえあって自分らしく暮らしているから、笑いたいときに心の底から笑い、泣きたいとき、怒りたいときにも自分の気持ちに素直になれて、苦しいときには苦しいと言える、2100年は、そんな世の中になっています。



生きていく中で出会う、たくさんの「人生の選択」。
たとえば、どこに住むか。
たとえば、どんな仕事をするか。
たとえば、結婚するかしないか。子どもを産むか産まないか。

いろんなことが起こるけれど、だれでも平等に、自分の意志で、自由に決めることができるようになっています。



スポーツだって、文化活動だって、自分のやりたいことには、だれでも、なんでもチャレンジできる。



それが、「人とともに生きる」2100年の江戸川区。

なにと「ともに」？ ②

社会とともに生きる。

人にはだれにでも、
得意なこと、苦手なことがあって、
性格も、考え方もちがいます。

でも、そんないろいろな個性をもった人たちが
みんなでささえあいながら、
いい意味で「ごちゃまぜ」に暮らしているから、
まちはにぎやかで、平和で、強い。

服をつくるのも、食べ物を用意するのも、
家を建てるのも、自分ひとりではできません。

このまちを動かすエネルギーは
「人と人がささえあうこと」です。



有名な観光地や遊園地はなくたって、
江戸川区には、
「人と人がささえあう力」があります。

2100年になってもそれは、
大切に守られていて、
自分たちが住んでいるまちを、
自分たちの力でつくっています。

自分だけでなんとかしようとするわけでも、
だれかにおしつけるわけでもなく、
江戸川区に関わるみんなが
「自分たちのこと」として
ともにまちをつくらしているから、
いざというときにも強くなれる。



たとえば、地震や台風みたいな災害のとき。
ふだんからみんなで備えて、協力しあいながら暮らしているから
だれひとり取り残されるようなことはありません。
それが、「社会とともに生きる」2100年の江戸川区。

なにと「ともに」? ③

経済とともに生きる。

2100年の江戸川区は、
会社やお店、病院など……
生活をするうえで必要なものが、
まちの身近なところにとけこんでいて、
だれにとっても、より暮らしやすい
まちになっています。

まちで暮らすさまざまな人たちは、
個性をいかして
自分らしくいきいきと働き、
安心して日々生活することができています。

また、会社も、個人で仕事をする人も、
このまちをささえる大切な「区民」のひとりです。
その活動は、まちの元気の源となっています。



都心に近くて自然が豊かで、
人と人との
つながりがある江戸川区には、
新たなビジネスチャンスが
たくさんあります。

チャレンジする人が集まって、
まちをさらに活気づけています。

一方で、
昔からまちに根付いている仕事も、
新たな価値を生んでいます。

たとえば“農業”は、みんなの食べ物をつくったり、
地球温暖化を防いだりするだけではなく、人と人とのつながりを
生み出す大切な役割も果たすようになっていきます。
それが、「経済とともに生きる」2100年の江戸川区。



なにと「ともに」？ ④

環境とともに生きる。

川と海に囲まれて水が豊かな江戸川区は、「水の都」として親しまれています。

みどり豊かな木々や色とりどりの草花はもちろん、それらをささえる大地も大切に守られていて、公園や学校、河原や畑など、草花や土に触れることのできる場所がたくさんあります。

虫や鳥、魚など、さまざまな生き物たちも身近な自然の中にいて人と一緒にこのまちで生きています。

また、ひろびろとした場所が多いので、視線を上げれば、大きな空がどこまでも広がります。

豊かに育つ植物たちのおかげで、空気がきれいで気持ちよく暮らせるのもじまんのひとつ。



そんなすばらしい自然環境をこわすことがないように、2100年には、地球にやさしいエネルギーを自分たちでつくるようになっていきます。



使うときには、もちろん未来の世代のことを考えて、むだにすることや地球の負担になることはしません。

水が豊かな半面、いまは水害による被害を受けやすいけれど、2100年には堤防や建物がさらに強くなっているから大丈夫。

なによりも、「人と人がささえあう力」で、災害に負けないまちになっているから安心です。



それが、「環境とともに生きる」2100年の江戸川区。

未来とともに生きる。

江戸川区に関わるみんなが、
いま目の前の、自分のことだけでなく、
未来の世代のことを考えて、行動しています。

だからこそ、エネルギーもお金も、
いまあるものを使いきってしまうことがないように、
大切に、工夫しながら使いつづけています。

いまのわたしたちでは想像もつかないような新しい技術も
みんなで上手に取り入れながら、
人と人とでささえあうことを忘れずに生活しています。

そして、自分たちの考えや
できること・できないことを正直に伝えることができる、
強い信頼関係で結ばれています。

また、家庭と地域と学校が協力しながら、
未来を担う子どもたちを大切に育てています。



これが、いまを生きるわたしたちが話しあって、
考えて描いた「ともに生きるまち」江戸川区です。

でも、みんなの意見をもっともっと聴くことができれば、
もっともっとすてきな未来を目指せるはずです。
これからも目指すまちの姿をいっしょに考え、
いっしょに行動していきたいと思います。

さあ、歩き出しましょう！
わたしたちの「理想の未来のまち」へ。

「2100年の江戸川区」ができるまで ～みんなのえどがわ大会議～

2021年4月～5月

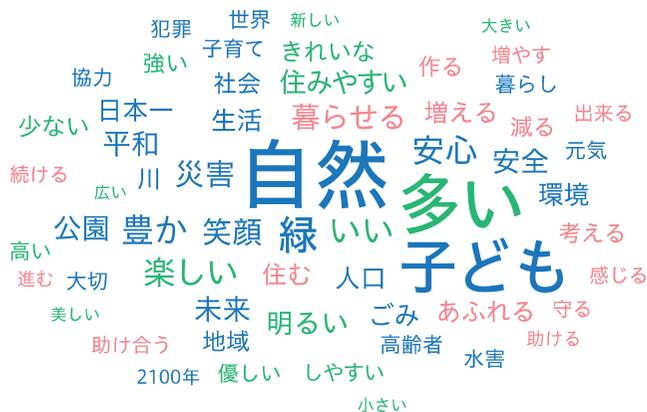
意見・アイデア募集

区が目指す2100年の「明るい未来」について、広く意見募集を行いました。『広報えどがわ』（2021年4月15日号）や、区のホームページなどを通じて、区内外の方々にご応募いただき、計7,904件のご意見が集まりました。

- 募集期間：2021年4月15日～5月25日
- 応募件数：7,904件
- 【内訳】郵送 6,540件
（小中学校46校からの応募を含む）
区ホームページ 315件
区職員 1,049件



『広報えどがわ』（2021年4月15日号）の特集



いただいたご意見の中でよく使われている言葉
※青色：名詞、赤色：動詞、緑色：形容詞

みなさんからいただいたご意見は、AI（人工知能）を活用して文字起こしを行い、その中でよく使われている言葉を抽出しました。

特に、「自然」「子ども」「緑」「豊か」「安心」「暮らせる」「増える」「住む」「あふれる」「多い」「住みやすい」「明るい」などの言葉が多く使われていました。

2021年6月

オンラインミーティング

区民のみなさんから「2100年の目指す姿」と、その実現のための「アイデア」について直接ご意見をいただくため、オンラインミーティングを開催しました。みなさんの思いがこめられた貴重なご意見をたくさんいただきました。



オンラインミーティングの様子

- 実施日：2021年6月15日、17日、18日
- 参加者：3日間・計28名

2021年7月～10月

ワークショップ

防災やまちづくり、福祉、子育て、教育、地域振興・産業振興など、テーマごとに「2100年の目指す姿」と、その実現のための「アイデア」について話し合いを行うため、ワークショップを実施しました。新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言発令中のため書面での開催となってしまいましたが、理想の未来についてのご意見や、具体的な施策のアイデアなど、熱のこもったたくさんのご意見をいただきました。

- 実施期間：2021年7月～10月
- 参加者：延べ486名（区が実施する事業に関係する方々、区議会議員など）
- 実施方法：書面開催（テーマ別に全11回実施）

2022年4月～5月

ビジョン（素案）に対する意見募集

ビジョン（「2100年の江戸川区」、「2030年の江戸川区」）の素案を作成し、意見募集を行いました。『広報えどがわ』（2022年4月1日特別号）や、区のホームページなどを通じて、たくさんの方々にご意見をいただきました。

- 募集期間：2022年4月1日～5月9日
- 応募件数：423件
- 【内訳】郵送 75件
区ホームページ 348件

2022年7月

ビジョン（最終案）に対する意見募集（パブリック・コメント）

ビジョン（「2100年の江戸川区」、「2030年の江戸川区」）の最終案について、意見募集（パブリック・コメント）を行いました。いただいたご意見は、区の考えと併せて区のホームページにて公表しました。また、区の施設にて来庁者にアンケートを行い、170名の方に回答いただきました。

- 募集期間：2022年7月1日～7月14日
- 応募件数：2100年の江戸川区 14件
2030年の江戸川区 8件

～たくさんのご意見をいただき、ありがとうございました～

えどがわ未来カンファレンス

江戸川区は、各界で活やくするみなさんと共生社会の実現に向けて話しあうため、2020年、「えどがわ未来カンファレンス（通称：えどカン）」を立ち上げました。2年にわたって計8回の会議を開催し、江戸川区の目指す未来やそのための取り組みについて、18名の委員のみなさんと議論を重ねてきました。



ともに生きるまちを目指す条例（前文）

ともに生きる。

私たちは、一人ひとりを尊重し、誰もが安心して暮らせるまちを目指します。

● 人とともに生きる。

このまちには、0歳から100歳以上の人まで様々な年齢の人たちが暮らしています。その中には、障害のある人や外国籍の人などもあります。一人ひとりの「ちがいが」尊重されることが、まちづくりの源なのだと、私たちは考えます。

● 社会とともに生きる。

このまちでは、一人ひとりの立場や置かれている状況がちがう人々が集い、学び、働き、遊び、活動しています。ともに力を合わせる大切なのだと、私たちは考えます。

● 経済とともに生きる。

このまちで活動する事業者は、大切な区民の一人です。地域に力を与えてくれる存在なのだと、私たちは考えます。

● 環境とともに生きる。

海抜ゼロメートル地帯であるがゆえの災害の危険性を受け入れ、大規模な水害や巨大地震などが起きても誰一人取り残さないことが大切なのだと、私たちは考えます。

● 未来とともに生きる。

世界中の人々が、より良い未来を創るために活動を始めています。それらを学びながら先頭に立って走り続けたいと、私たちは考えます。

今日生まれた子どもたちが2100年になって生活しているこのまちを、夢と希望に満ちあふれたものにしたい。私たちはその実現に向けて全力を尽くすことをここに誓い、2021年、この条例を制定します。

ご自身なりの「ともに生きる」

～あとがきにかえて～

ともに生きるまち（共生社会）。これが、江戸川区が目指すまちの姿です。

このビジョンの中には、5つの「ともに生きるまち」の姿を描きました。しかし、5つが全てではないと、私は考えています。みなさん一人ひとりの中に、ご自身なりの「ともに生きる」があるのではないのでしょうか。

私が思う6つ目は、「自分とともに生きる」です。

人には、元気なときもあれば、病氣やけがのときもあります。幸せな気分するときもあれば、落ち込むときもあります。しかし、どんなときでも、ありのままの自分の姿を受け入れて、自分らしく生きていくことができるまちは、みんなが暮らしやすい、すてきなまちになるのではないのでしょうか。

あなたなら、どう考えますか？ ぜひこれからもいっしょに、自分にとって安心して暮らせる江戸川区をつくっていきましょう。



江戸川区長 齊藤 猛

発行月：令和4年（2022年）8月

編集・発行：江戸川区経営企画部企画課

〒132-8501 江戸川区中央1-4-1

03-3652-1151（代表）

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/>



ビジョンの
特集サイト

